

プロジェクト報告書

【締切:プロジェクト終了後1か月以内。もしくは 2011年4月30日】

団体名 特定非営利活動法人 くわの実

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. プロジェクト名

くわの実デイプロジェクト

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

※応募申請書に記載のもので可。

身体に負担の少ない滞在時間の短いデイサービスや、定員が少なく家庭的な雰囲気のあるこじんまりとしたデイサービスのニーズがあります。しかし、提供時間が短く(4 時間～6 時間)定員が少ない(10人以下)のデイサービス事業所は武蔵村山市内では当事業所のみです。当デイサービスへの通所希望者が増えています。定員が10 名のためいつも満席状態にありました。同じような規模で同じタイプのデイサービスをもう一つつくる事で、順番を待っている人や回数を増やしたい人、認知症高齢者の介護負担の軽減などのニーズに応えていきます。

3. プロジェクトの内容 300文字まで

※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のもので可。

2010年9月1日の開所に向け、9人定員の二つめの小規模通所介護事業所(デイサービス)の準備を進めてきました。ハード面ではプロジェクトスタッフ、法人理事、大家さん、設計士、大工さんが一体となって、以前事務所として使用していた部屋を改装し新しいデイルームを作りました。共有する調理室・風呂場・相談室も併せて改装しました。壁を隔て二つのデイルームが出来ました。実際の運営は一年以上かけて育成したスタッフと今までのデイサービス職員双方が協力して行っています。

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

当法人の大家さんは、「社会貢献の一つ」ととらえ、私たちの活動を理解し応援してくださっています。6年間その信頼関係や期待をうらぎる事なく頑張ってきました。くわの実の成長を共に喜び、今回の無理な注文にも快く受け取り感謝しています。実施に当たっては限られた空間の中で、施設の設置基準を満たすために、設計段階で法人の要望と設計施行者との打ち合わせを綿密に行ったため、細部や利便性の面で行き届いた適切な助言をもらえました。おかげ様で、効率的に利用しやすい施設となり今後継続的に安定した活動の場を提供して頂きました。

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

認知症利用者の行き場探しを発端に、一年半前にプロジェクトを立ち上げた時は全く白紙の状態でした。まずは大家さんの許可を頂き、メンバーや利用者の夢を乗せてプロジェクトがスタートしました。もう一つの難題は開設に係る財源をどうするか悩んでおりました。今回「Shinjo プロジェクト」に応募し、消耗備品購入の助成金を頂けた事は大変な喜びです。くわの実を盛り上げてくださる方々の期待が新しいデイルームとして夢を実現できたと思っています。設立15周年の節目の年に、活動の場を広げて頂いた皆様方の期待に応え、さらに期待がふくらむ様地域に根ざした活動を展開していきたいと思っています。

6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

参考資料あり ・ 特になし

活動状況の写真

